

私は、アメリカの流通やSCを学ぶ際に、いつも「形を学ぶのではなくメカニズムを学びなさい!!」と言います(六車流：流通理論)。すなわち、アメリカで起こっている「現象を知るのではなく、現象が起きる要因と仕組みを学ぶこと」が大切です。1つの物事を成功させるためには「知識 理論 戦略 戦術 戦法」の5段階が必要ですが、そのうち理論編がメカニズム解析です。

アメリカでは日本より40年前からすでに、今、日本で起こっている流通上の出来事が起こっており、その中に成功と失敗の事例の歴史が山のようにあります。この成功と失敗の山を「ゴミの山にするか、宝の山にするか!!」は、アメリカの流通歴(過去及び現在の流通現象)を、どのように学かにかかっています。

私は、アメリカは「流通模範国家」ではなく、「流通先進国家」であると考えています。今、アメリカで起こっているあらゆる流通上の出来事は決して適正(模範)ではなく、日本より先に流通が進んでいる(進化)から起こっているのです。すなわち、ダーウィンの言う進化論を比喻すれば、アメリカの多様な環境の中で、また環境の変化の中で、環境に適したものが生き残り、環境に適さなかったものが淘汰(失敗)されているのであって、決して進化は適切な(正しい)ものになっているとは限りません。

アメリカの流通現象を起こさせる要因の中には、経済がアメリカのようなレベルに達すると、どの国も同じような流通現象が起こる「経済時差」(ex:どの国も個人国民所得が1万ドルを越え、かつ、車の保有率が50%を越えるとSC時代になる)や、アメリカの特殊事情によって起こる「国情格差」(ex:アメリカの国土の広さ、人種の多様性、所得の2極化から生じる流通現象)の2つがあります。

それゆえに、アメリカで起こった流通現象が、日本でそのまま起こるとは限りません。アメリカで起こっている流通現象が、経済時差に基づく流通現象なのか、国情格差に基づく流通現象なのかを見極める必要があります。経済時差によって起こっている流通現象ならば、日本において、いずれ同じことが起こるとしても、その時期が経済的に来ているのかの判断、また、国情格差によって起こっている流通現象ならば、日本では起こらないのか、あるいは形を変えて起こるのか判断することが必要となります。

この日米の両方の流通環境の実態と変化を見極めて、アメリカの流通現象を日本に導入するためのノウハウが、「アメリカの流通の波及ノウハウあるいは応用ノウハウ」です。

真似するにもノウハウが必要という由縁はここにあります。アメリカの流通現象の同じものを見て、「大成功した例」と「大失敗した例」があります(アメリカのハイパーマーケット業態の真似による天国と地獄理論と言います)。

失敗の多くは、成功のメカニズムの「知識」「理論」「戦略」「戦術」「戦法」の順不同の原則の中で、知識(見たこと)を戦術(形として仕上げる)化し、理論(どのようなメカニズムで成り立っているのかの検証)と戦略(どうすれば成果が出るのかの検討)をしていない結果です。

このように、アメリカ流通を学ぶにあたってメカニズムによるノウハウは大切であり、ノウハウには次の3つのタイプがあります。

普遍的なノウハウ 何百年、何千年も通用する万物共通基本原則から成り立っているノウハウ
(ex:孫子の兵法、宇宙の原則の流通応用モデル)

変貌的ノウハウ 時代を変え、場所を変え、環境を変えて、形は変わるが中身は同じノウハウ
(ex:ランチェスター理論、マクネエアの小売の輪理論、クリスタラーの中心性理論、ライリーコンバーズの理論)

技術的ノウハウ 形をつくるノウハウであり、常に見た目で変化している技術的かつ手法的なもの

SCの開発で言えば、SCとは何か「SC理論」が普遍的なノウハウであり、「勝ちパターンづくり」が変貌的ノウハウであり、「建物等の形づくり」が技術的ノウハウです。